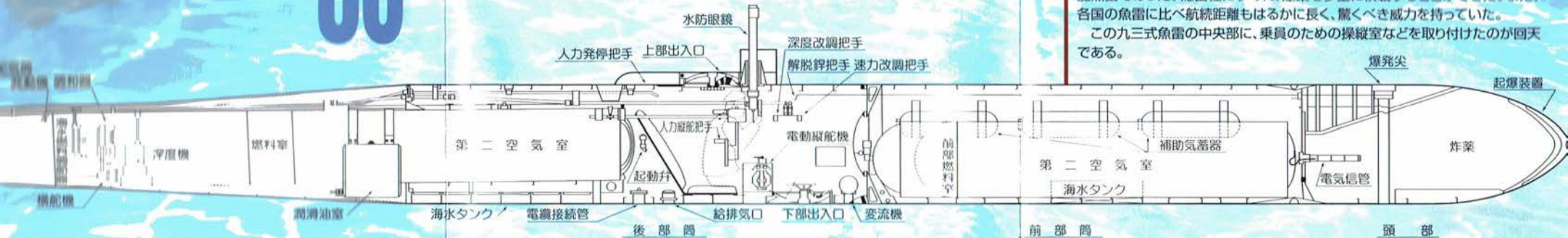


最高速力30ノット

30



# 回天 (マルロク 金物一型)

回天は、機密保持のため、<sup>マルロク</sup>兵器と呼ばれた。回天の母体となった九三式魚雷は、酸素魚雷といわれるもので、終戦まで秘密のベールに覆われていた高性能魚雷であった。隠密性にすぐれ、爆薬を多量に積載することができた。また、各国の魚雷に比べ航続距離もはるかに長く、驚くべき威力を持っていた。

この九三式魚雷の中央部に、乗員のための操縦室などを取り付けたのが回天である。

550

推進馬力550馬力

8.3

全重量8.3t

14.75

全長14.75m

1.55

搭載爆薬重量  
1.55t



### ■回天搭乗員の出身

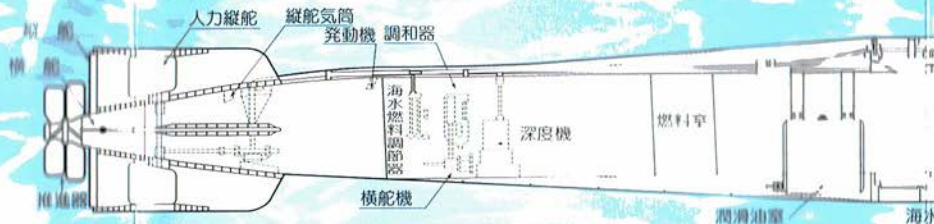
出身	搭乗員数	戦没者数
海軍兵学校	80名	10名
海軍機関学校	32名	12名
海軍水雷学校	9名	9名
予備学生	210名	20名
甲種飛行予科練習生	935名	40名
乙種飛行予科練習生	100名	0名
合計	1,375名	100名

最高速力30ノット

# 30

### 回天特別攻撃隊への志願

終戦までに訓練を受けた回天搭乗員は1375人にも及んだ。そのほとんどが兵学校・機関学校出身の若者、学徒や学生出身の予備学生、20歳に満たない予科練出身者たちだった。年齢も17歳から多くても28歳、大多数は20歳前後の若者であった。回天による戦没者は、搭乗員、整備員他145名、没時の平均年齢は21.1歳である。



回天烈士遺影

推進馬力550馬力

# 550